

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
外国人情報コーナーの相談件数	件	2,400	2,312	▲88件

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	相談件数の減	<p>・新型コロナウイルスの流行や政府の水際対策により、在留外国人数は若干減少しており（令和2年末 約289万人→令和3年末 約276万人、約4.5%減・いずれも全国）、大阪府内の在留外国人数も同様の傾向にあると考えられることから、相談件数にも影響を与えたと考えている。</p> <p>・なお新型コロナ関連の相談については、影響が長期化し、情報の浸透が進むとともにワクチン接種も進んだことから、相談件数には落ち着きが見られていた。しかし、第6波で感染者が急増すると、コロナ関連の相談件数も増加に転じ、その結果、令和2年度の671件から、令和3年度は991件と増加している。全体の相談件数はこの影響もあり、2,312件を数えたが、入管手続や通訳・翻訳に関する相談等が減少したため、中期経営計画の目標には若干及ばなかった。</p>						<p>・最近も、ウクライナ避難民への支援に係る相談が相次いでいるが、こうした時勢に応じた相談対応、情報提供及び相談窓口の周知に努めて参る。</p>
	項目名	相談件数	R3当初想定値	2,400件	実績値	2,312件	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府国際交流財団

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
ホームページアクセス数	件	86,000件	85,410件	▲590件

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの魅力不足 ホームページの告知不足 SEO対策不足 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの情報発信量や更新頻度が少なく、ユーザーから見た魅力的なコンテンツが不足している。 SNS等を利用しているものの、在住外国人ユーザーとミスマッチが生じている。 SEO対策が不足しており、検索順位が劣位となっている。 						<ul style="list-style-type: none"> ユーザー（在住外国人）のニーズに沿った生活情報に関連するFAQの情報発信やコンテンツを充実させる。 ユーザーの利用頻度の高いSNSの活用、利用者目線でのメールマガジン等による情報発信を行い、HPへの誘導を強化する。 専門家の意見を取り入れ、SEO対策を充実・強化する。 最近にHPの内容をリニューアルする等、HPを通じた情報発信に注力している国際交流団体に対して、手法、ユーザーからの反応についてヒアリングを行い、今後の改善の参考にする。
	項目名	アクセス数	R3当初想定値	86,000件	実績値	85,410件	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
収入確保策	千円	9,000	6,666	▲2,334

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	・補助金、委託金、交付金の増額及び協賛金、寄付金の獲得による上乗せが不足	・前年度(令和2年度)実績(6,472千円)は超過できる見込みであるが、大幅増となった目標(前年比3,000千円増)には届かない見込み。30件程度のアプローチを想定していたが、マンパワー不足もあり、実際のアプローチは10件程度となり、大幅な目標増に相応するアプローチ量の増が図れなかった。						引き続き、受取補助金・受取委託金・受取負担金等の獲得に加え、協賛金・寄付金の獲得に向け、適切な役割分担を行い、アプローチの総量増により、増収を図る。
	項目名	収入額	R3当初想定値	9,000千円	実績値	6,666千円	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	